

平成 15 年度総合情報基盤センター年報 巻頭言

総合情報基盤センターの充実

熊本大学総合情報基盤センター長

秋山 秀典

1964 年 4 月に学内共同利用施設として電子計算機室が発足し、1986 年に 8 月に情報処理センターと改組され、1990 年 6 月に省令施設として総合情報処理センターとなり、その後 2002 年 4 月に総合情報基盤センターとして改組拡充され、2 年間で過ぎました。3 研究部門を持ち、センター長、教授 3 名、助教授 2 名、助手 2 名、技官 3 名、事務補佐員 3 名からなる組織です。

総合情報基盤センターの主要な目的は、3 研究部門での研究遂行、どの学部を卒業しても一定レベルの情報技術の修得を保証する情報基礎教育の実施、計算機システム・情報ネットワークシステムの管理運用、情報技術活用による教育・研究支援、及び情報技術に関する地域連携・国際発信です。

3 研究部門での研究遂行に関しては、計算機援用教育研究部門、メディア情報処理研究部門、ネットコミュニケーション研究部門の密接な連携のもと、学部生や大学院生を受け入れて勉強会を毎週しながら、研究を進めてきた。その成果は、情報関係学会や会議で発表されるとともに、学会誌や国際会議論文としても数多く発表されている。これらの研究成果の多くは実際の業務から得られたものであり、実業務と研究が結びついた良い形となっている。この 2 年間は、e-learning をセンターの主研究課題として、協力して遂行してきた。今後、Kumamoto University Online (KU-Online) の構築に向けて取り組む予定である。

どの学部を卒業しても一定レベルの情報技術の修得を保証する情報基礎教育の実施に関しては、新入生全員に対して、センターの教官が作成した e-learning コンテンツを補助教材とした教育を行ってきた。ホームページの作成やデザイン等、学生全員に作成させて実際にコンピュータを使う面での教育を行うとともに、ウィルス対策やコンピュータを使う上での倫理面での教育も重視した。2006 年度から情報技術のある程度勉強した新入生が入ってくるため、教える内容の大幅な変更と、資格取得を視野に入れた情報基礎教育が可能になると思われる。

計算機システム・情報ネットワークシステムの管理運用に関しては、Gbits/s のネットワークが動いているとともに、約 1000 台のパソコンが順調に稼働している。さらに、認証と暗号化機能を持った全学無線 LAN システムが稼働している。今後は、研究室等で使っていた無線 LAN はセンターにつなぎ、認証のない無線 LAN を禁止する方向である。情報セキュリティポリシーは、実施手順書に基づいた運用がまもなく開始される予定である。情報技術活用による教育・研究支援に関しては、学務情報システムとしてのソウセキの充実、及び授業支援システムとしての WebCT の全学化を行った。特に、授業支援システムは、今年度は情報基礎教育ですべての新入生が利用した。2004 年度からは、すべての授業で利用できるように設定予定である。学部 1 年生と 2 年生のときに利用し、その学生が高学年になるとともに全学生が WebCT の利用方法を習熟することになる。教官への対応が急がれる。

情報技術に関する地域連携・国際発信に関しては、2002 年度から実施されている地域貢献特別支援事業による熊本県と熊本大学間のネットワークの構築がなされ、ネットワークを中心とした地域連携・国際発信がなされている。地域貢献特別支援事業費で充実されたインターネット会議システムやライブストリーミングシステムを用いて、特別講演や地域連携シンポジウムが全国に向けて発信された。

以上のように、総合情報基盤センターになった後 2 年間で、熊本大学の高度情報化キャンパスに向けた多くの取り組みが行われ、前進した。今後も、留まることなく、高度情報化キャンパス構築に向けて取り組む必要がある。秋山は、21 世紀 COE プログラムに専念するため 2004 年 3 月でセンター長を退任しますが、今後も総合情報基盤センターへの皆様の暖かいご指導とご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。